

神の母聖マリア（世界平和の日）

福音朗読 ルカ 2・16-21

2023.1.1

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

皆さん、明けましておめでとうございます。

2023年、今日は東京は快晴で迎えることができ、そして、神の民の今年の最初の務めとして、教会のカレンダーではもうすでに新しい年はクリスマスから始まっておりますけども、このようにご一緒にごミサをお捧げすることができることを感謝いたします。

ミサの冒頭にも申し上げましたけども、1月1日のごミサは三つの意味があります。クリスマスの8日目、というのは、復活祭も次の日曜日、復活第2主日も復活祭と同じ荘厳さでお祝いするっていうので、クリスマスの続きとか一部分としてお祝いするとともに、神の母聖マリア様の祭日であり、また、世界平和の日となっています。毎年世界平和の日、1月1日のために教皇様はメッセージをお出しになっておりますので、中央協議会のホームページとかカトリック新聞でご確認いただければと思います。

今日は、教皇様の世界平和の日のメッセージというよりは、むしろ、フランシスコ教皇様のクリスマスメッセージの中からお言葉をいただきたいと思います。教皇様は2022年のクリスマスメッセージの中で、昔の聖レオ1世という教皇の言葉、「主の誕生は平和の誕生」っていう言葉を使って、ほんとにクリスマスは平和の源であるイエス様の日なんだということを思い起こさせてくださっているんです。レオ1世って、古代のローマの教皇ですけども、レオ1世の時代も、ローマ帝国が滅亡した後の民族大移動の時代です。フン族とかヴァンダル族とかローマを略奪するためにいろんな軍勢がやって来てっていう時代だし、また、大きな政府が無くなっちゃってるからローマの中でもいろんな混乱がある、そういう時代にローマの教会だけではなくてローマ全体を舵取りした教皇様なんです。その教皇様がクリスマスのときに、「主の誕生は平和の誕生」って言ったときには、それはただの言葉の綾ではない。いろんな戦乱の中にある、平和の希望はかすかだけど、でも神様がちゃんと示してくださっているんだっていうことを、希望をもってそこに思い出した。そういう言葉として受けることができるんです。

その言葉をフランシスコ教皇様が今回またわたしたちに示してくださっているというのは、やっぱり今の状況、世界中が戦場になってるわけじゃないけど、でも戦争の影響、そしていろんな形での問題の中で世界が共に苦しんでいる。コロナ禍もそうだしね。その中であって、でも大切なものをもう一回思い起こしましょう、そんな思いで示してくださったんじゃないかなと思うんです。

教皇様はおっしゃいますね。「イエスこそ、御父である神が、御子をこの世に送られることで、人間に与えられた平和の道です」とおっしゃってます。「イエスの受肉、受難、死、復活によって、自分の殻に閉じこもった憎悪と戦争の暗い影に覆われた世界を、きょうだい愛と平和のうちに生きることができる、開かれた、自由な世界へと導く道を開かれた」と言ってます。でも、その道を行くためには捨てなければいけない荷物がありますと教皇様はおっしゃいます。それは「権力と金銭への欲、自尊心、偽善、嘘」、そういう荷物を捨てないとイエス様の道はたどれないし、ヘロデ王とかイエスの誕生を拒んだ周りの人たちはそれを捨てることができなかつたんだ、と。

わたしたちはどうでしょうか、と問われています。教皇様が「あの時同様、真の光であるイエスは、無関心という病に侵されているこの世に、イエスを受け入れない世界に（ヨハネ 1・11 参照）、多くの外国人や貧しい立場に置かれた人々に対するように、イエスを無視する世界に、お生まれになりました」というふうにおっしゃっています。

わたしたちはイエス様が生まれたんだ、クリスマスおめでとう、と毎年言います。でもこの世界に平和をもたらすために、この世界を平和に導くために、何度も何度もお生まれになる、わたしたちと共に歩もうとされるイエス様の御心を思い出さなきゃいけないんだなあと思います。今日、ここにもクリスマスのときに安置されました幼子のご像がありますが、教皇さまが「お生まれになった幼子のみ顔の中に、世界の平和を待ちわびているすべての子どもたちの顔を思い浮かべましょう」と言っています。だから、イエス様だけじゃなくて、すべての子どもたちが戦争とか飢餓とか、自分のいただいた自由な人間性を開花させることを妨げられている子どもたちが多くいるってことをこのときに思い起こさなきゃいけないわけです。

クリスマスって、いろんなパーティーとか、わたしたちはお正月も、いろんな親しい人に会ったり、パーティーしたり、楽しいことがあります。でも、その中でも、わたしたちが、イエス様がお生まれになった場所ベトレヘム——ベトレヘムっていうのは「パンの家」っていう意味なんですよ、そこに全ての人を養うパンがあるようになって——そのパンの家ベトレヘムからわたしたちの目を逸らすことがないようにって教皇様が言ってますよね。食べることは一番だけど、でもそれだけじゃなくて、生きていくために必要な平和であつたり、周りの人から注がれる愛情だったり、自分

の与えられたものを開花させていくための自由とか機会とか、それもみんなパンと言って良いと思います。わたしたちはミサのたびごとに一番大切な祈りとしてお祈りする主の祈りの中で「わたしたちの日ごとの^{かて}糧を今日もお与えください」、糧って訳されているけれど、もともとはパンだよね。パンのためにお祈りするわけです。

なので、今日はこのごミサを通して、わたしたちは神の民の使命として集まっているので、もちろんみんなそれぞれご自分の一年のことを感謝して、またいろんな希望を神様の御前にお捧げする機会にもなるでしょうが、同時に、幼子の中にほんとうにすべての人の、今の子どもたちやかつて子どもたちだったすべての人のために、ほんとうに「日ごとの糧を今日もお与えください」と、いろんな生きていくために必要なことが与えられるように、マリア様と共に、共に祈りながらこの1月1日のごミサをお捧げしたいなと思います。

わたしたちのためにお生まれになった平和の君イエス様と共に、「主の誕生は平和の誕生」だってことを心に刻みながら歩む、その思いを新たにしてこのごミサを共にお捧げしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>